

様式第2号(第7条関係)

会議結果報告書

令和5年9月20日

(宛先) 総務課長

学校教育課長

会議の名称	舞鶴市部活動地域移行あり方検討会	
区分	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和5年8月10日(木)午後3時～午後5時15分	
開催場所	舞鶴市役所 別館5階 中会議室	
出席者	検討会委員11名	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
	<input type="checkbox"/> 非公開	
傍聴者数	6名	
議題	(1) 中学校部活動地域移行の概要について (2) 舞鶴市の取組経過について (3) 今後の取組について (4) 意見交換	

<p>審 議 結 果 及 主 な 意 見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域移行には色々な選択肢があり、舞鶴市にとって何がよいかを議論することが重要。今まで出来なかった改革をするチャンスとしてほしい。 ● スポーツで進路を決めたり、また居場所になったりと中学校部活動が担っていた役割は大きい。スポーツ・文化を通じてどんな人間に育ってほしいかというビジョンが必要 ● 指導をするとなった場合は、市で研修をしてほしい ● 伝統文化を伝えたいという思いはあるので、文化に出会うきっかけになるような仕組みができればよい ● 地域移行をきっかけに、今まで部活動になかったものに出会えるようにしたい ● 舞鶴市で実施する以上は、舞鶴市の地域の振興、文化スポーツ活動の充実に繋がることが重要 ● 広報がまだ足りていない。様々な形で情報発信をしてほしい
<p>会 議 録 の 作 成 様 式</p>	<p><input type="checkbox"/> 詳 細 <input checked="" type="checkbox"/> 要 約</p>
<p>備 考</p>	

第1回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会 議事録

日 時：令和5年8月10日（木）午後3時～午後5時15分

場 所：舞鶴市役所別館5階 中会議室

出席者：

出席委員	団体の役職
秋原 栄人	舞鶴市教育委員会指導理事
塩尻 徹	TOMAIスポーツクラブ 代表
鈴木 元	舞鶴ちゃったスポーツクラブ 会長
高橋 てる恵	公益財団法人舞鶴文化教育財団 理事
田中 美香子	舞鶴文化協会 副会長
鳥山 美香	舞鶴市PTA連絡協議会 会長
内藤 行雄	一般財団法人舞鶴市スポーツ協会 会長
長積 仁	立命館大学 スポーツ健康科学部 学部長
福本 浩介	中学校校長会 会長
森 隆	舞鶴市スポーツ少年団 本部長
山内 薫	中学校体育連盟 松林会長代理

【事務局】教育委員会4名、市民文化環境部5名

【傍聴者】一般傍聴6名、取材2名

会議録：

1. 開会挨拶

2. 会長、副会長の選出

- 事務局から有識者の長積委員を会長に、中学校長会の福本委員を副会長に提案
- 委員が同意し、提案どおり会長・副会長を選出

3. 議事

- (1) 中学校部活動地域移行の概要について…事務局から説明
- (2) 舞鶴市の取組経過について…事務局から説明
- (3) 今後の取組について…事務局から説明

(4) 意見交換

主な意見は以下のとおり

※地域移行全般について

- 舞鶴市がどういう方向に進んでいくかについて議論が必要。将来的に活動を学校の管理外にするのか、学校の管理内でしていくのかでも大きく方針が分かれる。学校の管理内では今までとやっている人が違うだけで変わらないという意見もある。色々な選択肢があり、舞鶴市にとって何がよいかを議論することが重要。
- 部活動に関する問題は、今までできなかった改革をするチャンスになる。既存の枠組みで進めてきたことを変える好機としてほしい。
- 地域移行した際、保護者の送迎がいるのかなというのが気になっている。
- 地域に移行することによってできる、他学校の友達や絆、地域との関わりが広がっていくこともあると思う。
- 一つの競技や文化活動をしっかりやっていくのはもちろん大事だが、体の動かし方を学んだりレク的な活動をしたりする「基礎部活」というジャンルは興味深い。
- 市が今まで何をし、何をしたいこうとしているのか、舞鶴市の向かいたい方向性などについて、多くの方々に知っていただくのが重要なので、積極的な広報をしてほしい。

※スポーツ活動について

- 中学生の10%から15%ぐらいの生徒は、スポーツ推薦で進路を決める。またアンケートの結果として、30%ぐらいの子どもは、競技力向上というよりも、友達が入ったからとか、親がやっていたからという理由で部活動をしており、競技スポーツとしてやっている子ばかりではない。多様なニーズを踏まえて地域移行していくとなると、楽しめる活動にしていかなければならない。
- 中学校だけで子どもの人生を終わらないので、生涯スポーツ、親しむ習慣というものを育むというビジョンが大事だと思う
- 指導者を見つけるには地域に早くから呼びかけていく必要がある。
- 現在、部活以外にもクラブチームに所属することで練習量が増え、健康状態を心配する状況の生徒もあり、保護者などには十分注意するよう伝えている。

- 今年度の全中大会から、クラブチームからの参加ができるようになり、各都道府県でどうするかは任されている。京都府中体連の全中大会予選は、クラブチーム同士で予選し、府大会から参加できる。その際、一定制限はかけている。
- 勝利至上主義になって引き抜きなどの問題がでてくるのではと危惧している
- ボート競技について地域で一つ活動の土台を作り、そこで小学生・中学生・高校生が一緒になって活動していきたいと思っており、部活動地域移行はそのチャンスとなる。

※文化活動について

- 指導のためのライセンスを持っている方は多いが、土日や平日に中学校に行って教えるのは難しいのではないかと。また、学校の生徒を指導するとなると不安があるため、市で指導者に対する研修があればいい。
- 文化芸術活動をしている方には高齢の方が多いが、皆、伝統文化を伝えたいという気持ちを持っていて、今のうちに何とかしたいと言っている。文化に出会うきっかけになるような仕組みができたらよい。
- 合唱については、中学校の部活動以外にも小中高校生を集めて指導している団体があり、活躍しているので、比較的地域への移行は見えやすい。一方吹奏楽は楽器や練習場所などの問題が出てくる。
- この地域移行が今はできていない活動や絶えてしまった活動を復活するなど、よりよい地域活動のきっかけになったらよい。

4. 開会挨拶